

平成27年9月29日発表 担当課:社会教育課 (江南文化財センター)

事業の名称等

熊谷市前中西遺跡から弥生時代の祭器である石戈(せっか)が出土。速報展示公開。

1. 日時

平成27年9月29日(火)

2. 場所

熊谷市役所3階303号室

3. 事業概要

(目的・内容) 石戈とは、弥生時代に中国や朝鮮半島より伝わった武器形青銅器の 銅戈を模倣して製作された日本独自の祭器である。西日本での出土が多いが、東日 本では約25点出土しており、特に長野県での出土が多い(14例)。前中西遺跡 では、すでに県内初の出土例として破片が1例あることから今回で2例目となる。 しかし、ほぼ全形のわかる例は全国的にも極めて珍しい。石戈は、当地域のみなら ず東日本における弥生時代の祭祀の様相を把握する上で重要な研究資料となること から熊谷市立江南文化財センターにおいて速報展示公開する。

(経緯・経過)石戈は、市内中西四丁目における上之土地区画整理事業に伴う前中西遺跡の発掘調査で出土した。調査期間は平成27年5月から7月まで、調査面積は200㎡である。出土位置は弥生時代中期後半(約2,000年前)の竪穴住居跡である。非常に脆かったため、保存処理・修復作業が終了したこの時期に発表することとなった。なお調査地点はすでに埋め戻しを終了しており、見学することは不可能である。

4. 特徴やPRポイント

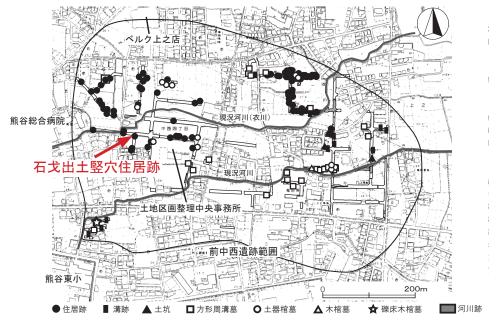
石戈は何らかの儀式の際、故意に折られることが多く、破片での出土が多い。しかし、今回の出土例は、ほぼ全形が把握でき、しかも樋(ひ)と呼ばれる溝の中に複合鋸歯文(ふくごうきょしもん)という文様が刻まれていることから近畿地方に多くみられる銅戈を忠実に模倣した石製としては全国初の例となる(土製模倣品は、新潟県上越市吹上遺跡に出土例がある。)。石戈の出土した前中西遺跡は、弥生時代中期中葉(約2,100年前)から後期前半(約1,900年前)まで長期にわたる大規模かつ当地域における拠点的集落である。徐々に長野県北部を中心に広がる文化を受容するようになり、今回出土した石戈もその影響を裏付ける遺物である。こうした特徴を持つ石戈を展示公開し、まじかに見ることができる。なお、展示期間は平成27年10月1日から平成28年3月31日までを予定している(ただし土・日曜日、祝日、年末年始(12月29日~1月3日)は休館日)。

5. その他

代表者 熊谷市教育委員会 教育長 野原 晃 LaO48-524-1111

※ 資料の有無([有] ・ 無)

担当者熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係主査松田連絡先048-536-5062(熊谷市立江南文化財センター)



第1図 前中西遺跡石戈出土地点位置図

前中西遺跡の概要

○所 在 地:熊谷市上之、末広三丁目、中西三・四丁目、箱田

○調査原因:土地区画整理事業 ○調査主体:熊谷市教育委員会

〇時 代:弥生時代から古墳時代、奈良・平安時代、中・近世までの複合遺跡。検出遺構の多い弥生時代は、

中期中葉から後期前半まで長期にわたり、大規模かつ当地域における拠点的集落である。



写真 1 石戈出土竪穴住居跡



写真 2 石戈発掘作業風景



写真3 石戈出土状況(上から)



写真4 石戈出土状況(横から)



写真5 保存処理・修復後の石戈 (A面)



写真6 保存処理・修復後の石戈(B面)

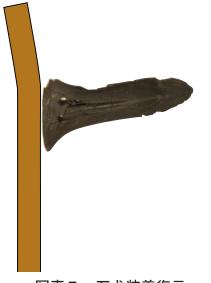


写真7 石戈装着復元

前中西遺跡出土石戈概要

出土位置 竪穴住居跡

時代・時期 弥生時代中期後半

(約2,000年前)

全長 約19cm

重量 160.33g

石材 粘板岩

<引用・参考文献>

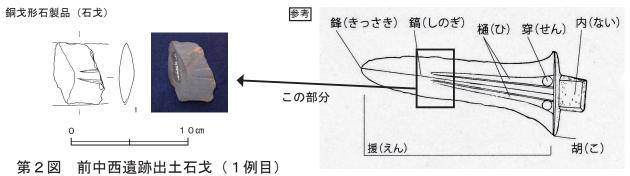
石川日出志 2012「栗林式土器の編年・系譜と青銅器文化の受容」 『中野市柳沢遺跡』長野県埋蔵文化財センター

2013「弥生時代研究と前中西遺跡」『シンポジウム熊

谷市前中西遺跡を語る』

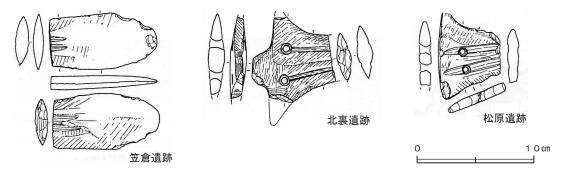
(財長野県埋蔵文化財センター 2008『みすずかる』15

廣田和穂ほか2012『中野市柳沢遺跡』長野県埋蔵文化財センター

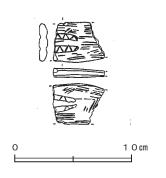


第3図 銅戈の部位名称 (財長野県埋蔵文化財センター 2008)

大阪湾型石戈



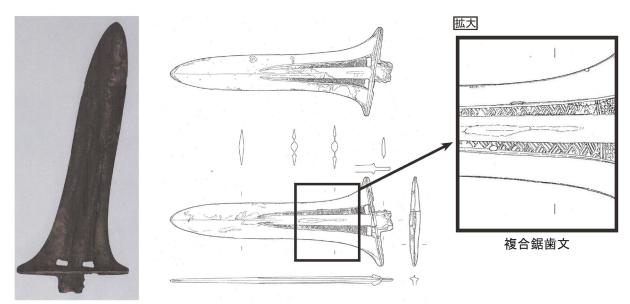
第4図 長野県出土の石戈 (石川 2013)



第5図 新潟県上越市 吹上遺跡出土土製模倣品 (石川 2012)



写真8 長野県中野市柳沢遺跡青銅器埋納坑 (廣田ほか 2012)



第6図 長野県中野市柳沢遺跡青銅器埋納坑出土5号銅戈 (廣田ほか 2012 より作成)